【種別】
原作者

【解説】
『とある魔術の禁書目録』の筆者。男性。
やる気(ゼロ)の著者近影を目指す。後書きはテンプレート的。
比較的他の電撃作家と比べても露出が少なく、人となりについては不鮮明な所が多い。
第九回電撃ゲーム小説大賞第三次選考まで残り、当該の作品こと『シュレディンガーの街』が担当の目に止まる。ちなみにその作品は、禁書目録とは全くの別モノであるらしい。
2004/4/10、『とある魔術の禁書目録』でデビュー。『禁書目録ノ全テ』によれば「メチャクチャ売れた」らしい。
「このライトノベル作家がすごい！」掲載のインタビューによると、5巻が刊行待ちの時点でもう6巻が書き終わっており、7〜9巻も既にプロットが完成していたらしい。因みに該当雑誌の発売日は2005/3/28、5巻の発売日は同年の4/10。
灰村キヨタカ曰く「微妙に体育会系っぽい」とか。参考：電撃絵師問答
『禁書目録ノ全テ』によると「小説を書くのが趣味と言い切る男」らしい。
竹宮ゆゆこ曰く「こんなに若いとは思わなかった」とのこと。
ミキティーのTwitterによると「次々回の打ち合わせをしていたら次々々回の原稿をポンと渡された」。……え……？
さらに6/1付の呟きでも「なんで毎回締め切り切ってない原稿持ってくるんですか」と言われている。

コラボ企画にもちょくちょく参加しており、割と交友関係は広いのかもしれない。
一方通行女性説を初めて提唱した某誤字脱字王とも交流があったりなかったり。

勝手に展開などを決め付けられることを嫌う素振りを見せている。
オトナアニメVol.20でのインタビューにおいて新約1巻ではインデックスが来て当たり前だよねと言われてるのでぶち壊したと明かしている。
『「〜に決まっている」とか「〜は外せない」ってのを見ると外したくなる』と発言をした。
良い意味で言えば、読者が予想していることの斜め上を行こうという姿勢である。

【コメント】
◆インタビュー曰く顔出しNGらしい。
◆他にも 鎌「HOの続編書いていい？」三「いいよ」
数日後 三「おや、かまちーからメールがきた。HOのプロットかな、印刷してみよう」
三「HOの……、完成した原稿……だと……」 という事件があったそうな
◆稀にペン先が光速を越えるとか。